

平成 30 年度 出前懇談会 会議録			
地区	夜明 地区	市長・副市長の出席	市長
日時	平成 30 年 8 月 9 日 (木) 19:30~21:10	場 所	夜明交流センター
地区 参加者	太郎良 夜明関町自治会長 (地区理事) 森山 夜明上町自治会長 池田 夜明中町自治会長		計 18 名
担当 グル ープ	リーダー	佐藤 市民環境部長	副リーダー 川津 林業振興課長
	プレゼン ター	河津 バイオマス資源化セン ター所長	連絡調整担当 日野 夜明振興センター長 後藤 地方創生推進課長
	書 記	伊藤 人権・同和教育課長、森下 なかつえ保育園長	
	構成員		
	その他		
議 題	テ ー マ		説 明 者
	1. 「防災・減災の取組」～それぞれの取組～		河津 バイオマス資源化センター所長
	2. 「土砂災害警戒区域」とは、		河津 バイオマス資源化センター所長

1. 「防災・減災の取組」～それぞれの取組～
2. 「土砂災害警戒区域」とは、

(質問)

- ・ 防災メールの登録者が少ないと思うが、登録に向けて取り組んでいることは何か。

(回答)

- ・ 出前懇談会などの場では、必ず登録をお願いする。また、「広報ひた」の毎月 15 日号に、QRコードも載せて周知しているが、登録者が増えない現状。本日の参加者も、QRコードを活用して登録してもらいたい。登録の仕方がわからない人は、振興センターで対応していきたい。
- ・ 防災無線が聞き取りにくかったり、特に高齢者の中には、携帯電話やパソコンでの情報収集が困難だったりとして市民に災害情報が届きにくいという現状から、今月、衛星回線を経由した市からの情報伝達システムの試験を実施している。本庁から情報を発信すれば、自動的に作動するラジオ型の端末で、電池稼働可なので停電時にも作動する。文字情報対応機種もある。特定の地域だけ

へ向けた情報発信も可能である。各家庭に一台設置できればよいが、予算を伴うので、議会とも相談をして、今後、設置範囲などを含めて検討する。

- ・災害情報の伝達が、有効な避難行動につながるよう地域のコミュニティーづくりや地域防災の組織や行動を確認し、見直しをしてもらいたい。

(意見)

- ・昨年の災害の日、河川が危険な状態になっている非常時にも関わらず、市の介護保険係の職員から突然連絡があり、4時頃訪問してきた（拒否をした）。
- ・5時頃、大鶴方面から来た消防関係者に、増水する中で留守宅の貴重品だけでも出そうと協力を要請したが、危険だから止めるように言い帰っていった。
- ・国道が冠水している時、家に施錠して閉じこもっていた独居高齢者に、夜明分団の消防士が協力して声かけをしてくれ、避難させることができた。

(回答)

- ・介護保険係の対応の具体的な内容を把握していないので、回答できない。

(要望)

- ・砂防ダム建設の説明会では、砂防ダムが土砂で埋まったら、土砂を取り除いて対応すると県土木事務所の回答だったが、6年前の災害後、再度質問したら、土砂は取り除かず手前に新しいダムを建設するという回答だった。現在、ダムは土砂でいっぱいになっており、埋まった土砂を取り除けば、大きな経費をかけて、新しくダムを建設する必要はないと思うので、土砂災害を防止するためにも、市から県に要望してほしい。

(回答)

- ・はい。

(要望)

- ・夜明公民館が、指定避難所になっているが、シャワー室を作ってもらえないか。

(回答)

- ・要望を持ち帰り検討する。

(要望)

- ・ 昨年の災害で流れた「夜明橋」の架け替えにあたって、計画では現状復旧だが、橋幅を拡張してほしい。高速道路開通以来、通行車両も増えている。防災にも関係し、緊急避難時に、離合できる橋にしてほしい。

(回答)

- ・ 「夜明橋」は、総合的に判断して、緊急避難路線に位置付けていないので、原橋どおりの橋幅で計画している。同じく災害で流れた「茶屋ノ瀬橋」の落橋による影響や交通量の増加については、誘導看板の設置や離合所の設置など「茶屋ノ瀬新橋」ルートを整備し、道路の利便性を高めることで対応していく。「夜明橋」については、橋の前後に離合所を設けたり、見通しをよくして橋を通行しやすくする等の方法を検討し、説明していく。(回答済)

(要望)

- ・ 夜明上町の防災無線拡声支局は2か所であり、風向きによって聞こえない。もう1か所設置してほしい。

(要望)

- ・ 家庭用の防災無線を独居高齢者世帯にリースすることはできないか。

(回答)

- ・ 防災無線屋外拡声子局では、情報伝達に課題があることから、前述のとおり衛星経由の受信端末を考えている。現在の拡声器は、地域や町内でのお知らせ等に利用して、災害時にはアナウンスは控えてサイレンを鳴らし、サイレンが聞こえたらテレビを見て情報を得るという方法もある。これ以上、防災無線屋外拡声子局を増やす計画は中止して、家庭用防災無線にも代わるものとして、無償で、衛星経由の戸別受信端末を設置していく方法を考えて行きたい。全戸に配布したら10億円ほどかかるので、夜明・大鶴・小野・東有田・上中前津江地区など災害危険地域には全戸配布するなど、設置範囲等も市民と相談して行きたい。

(要望)

- ・ 「川崎橋」は、通学路になっており、保育園利用者も通行しているので、道路の凹凸や欄干の修理等復旧について、今後の計画を知りたい。

(回答)

- ・川崎橋は先日の災害で被災し、欄干が流出したので、仮設でパイプによる転落防止措置をしている。今後、架け替えを計画しているので、それまでは、危険性がなければ仮設でいきたい。道路についても、応急になるが、アスファルトで舗装復旧していきたい。上下水道工事に合わせて行う。

(質問)

- ・日田彦山線の復旧の見通しについて尋ねる。

(回答)

- ・JR九州は、復旧するにあたり、路線赤字年間2億5千万円と復旧費用の一部負担を自治体に要求している。福岡県も大分県も負担しない意向であり、関係市町村も、若干の補修補助は考えられるが全額負担は不可能。JR九州は、経済的な保証がない限り復旧は実施しない方向である。

(市長)

- ・路線の使い方については、夜明・大鶴間の線路をJR九州から借用し、夜明駅を整備し、観光列車等を走らせるなど地域づくりとして考えていく必要がある。
- ・地域の交通手段として、バス路線も含めて公共交通を見直していく必要がある。
- ・災害から一年経ち、地域復興ビジョンを創っていく時期がきているのではないかと考えている。